

活動実績報告書

平成26年4月15日

登録番号 20130532

氏名 山本 道裕

1. 活動状況

平成21年4月 ～ 平成23年3月

・ 活動の概要

関東森林管理局在勤中に、群馬県北部に位置し、新潟県との県境に広がる約1万ヘクタールに及ぶ国有林(「赤谷(あかや)の森」)を舞台に、国(林野庁関東森林管理局)、地域住民組織、自然保護NGOとの三者協働による取り組み(通称:「赤谷(あかや)プロジェクト」)を担当し、「生物多様性の復元」と「持続的な地域づくり」を目標としたプロジェクトの活動成果を反映させた、国有林の管理計画(以下、「赤谷の森管理経営計画書」という)の策定に従事した。

・ 当該活動を挙げた理由

赤谷の森管理経営計画書では、生物多様性の保全と木材生産とを両立するため、将来目標とする森林の姿を描き、そこに誘導するため森林の取り扱いの内容を分かりやすくとりまとめた。

その策定に当たっては、植生や猛禽類等の様々な分野の専門家等を交え、調査(実験)、研究を行い、森林を科学的に評価して森林の管理に反映させていくとともに、人工林において循環的な木材生産を行いながら、生物多様性の復元を進めるため様々な検討を行った。このような構想の作成に向けた取り組みは、市町村森林整備計画等の策定にも応用可能であると考えたことが1つ目の理由である。

また、赤谷の森管理経営計画書の策定に当たり、計画作成の当初段階から国、地域住民組織、NGO、の三者が協働で検討を重ね、森林の現況を把握した上で、取り組むべき課題を抽出し、森林の取扱い等について計画書に盛り込んだ。

約2年間にわたる、赤谷の森管理経営計画書の策定過程において、幾度となく話し合いの機会を設けたり、地域の意見を聴取するための説明会を開催したりと、プロジェクト関係者をはじめ、地域住民やボランティアなど幅広く合意形成を図った。

こうした合意形成に向けての調整が、フォレスターの重要な役割・活動内容と考えられたことが2つ目の理由である。

・ 当該活動における、あなたの立場と役割

関東森林管理局のプロジェクト担当者としての立場で、プロジェクトで実施される調査・研究等の活動に実施主体の一人として参画し、また、赤谷の森管理経営計画の策定に関しては、局内の意見のとりまとめと調整を行い、関係者間の意見等を踏まえつつ、合意形成を図った事項について、赤谷の森管理経営計画書へ反映させる等の役割を担当した。

・ 活動上発生した問題点と課題及びそれへの具体的対応策

赤谷の森管理経営計画書の策定に当たっては、中核3団体や地元住民、ボランティアなど、立場が異なれば、発想や考え方、物事の進め方等が異なるため、これら活動を担う複数の主体等の意見をいかにまとめていくかが問題であった。

また、赤谷プロジェクト発足以来、分野別のワーキンググループを設け実施した各種のモニタリング等の成果や、ボランティアや地域の人々の活動を通して得られた成果をいかに目に見える形(分かりやすい記述で赤谷の森管理経営計画書に書き込む)にして、反映させるのが課題であった。

そこで、協働によるプラン(赤谷の森管理経営計画書)づくりは、関係者が当事者として主体的に参加することが必要と考え、最初に、森林の計画書とはどのようなものか、また、何について記述するものか等について、共通の認識を持つことが重要と考えた。

具体的には、森林施業や計画事項等について検討を深めるため、現行の森林計画制度や計画すべき項目、保安林等の森林施業上の法規制等について、時間をかけた話合いや議論を行い、関係者間で理解が深められるよう努めた。

・ **活動による成果で残された課題及び今後の改善方策**

今回の計画策定に当たっては、プロジェクト活動が始まって以来6年間の知見を盛り込んだものであるが、継続中の調査研究等を通じて、最新の科学的知見に基づき、柔軟に計画を見直す順応的管理手法を赤谷の森管理経営計画書に盛り込んだことにより、将来にわたって改善を重ねていくことが期待される。

そして、改善を重ねていくことで、木材生産活動をはじめとして地域づくりに成果を見出すことができれば、隣接する民有林を含めたエリアを拡大し、民国連携での生物多様性の復元と持続的な地域づくりに発展することが期待できるものとする。

2. 研修の受講状況

研修名 森林管理・経営技術者研修 平成23年5月
(実施主体)林野庁森林総合研修所

研修名 人材育成研修 平成25年11月
(実施主体)林野庁関東森林管理局

3. その他の自己の能力・維持向上のための活動状況

・ **各種研修の企画、運営又は指導者、講師としての参加**

- ① 平成23～24年度の2年間、准フォレスター研修及び林業専用道技術者研修における研修運営に従事
- ② 将来のフォレスター候補となる林野庁若手職員を対象とした研修を企画、運営及び講師として参画
- ③ 林野庁職員を対象として、赤谷プロジェクトの活動内容を主とした生物多様性保全に関する研修に講師として参加

・ **森林総合監理士(あるいは森林総合監理士に関連していると考えられる)としての活動等の雑誌、広報誌等への投稿**

- ① 持続的な地域づくりと生物多様性保全の両立を目指した活動内容に関して農林水産省広報誌(「AFF」)へ記事を投稿
- ② 准フォレスター研修の実施内容について林業情報誌へ記事を投稿
- ③ 准フォレスター研修の内容及び実績等を紹介した記事を関東森林管理局広報誌(「関東の森から」)へ投稿

・ **森林総合監理士(あるいは森林総合監理士に関連していると考えられる)としての活動等の研究会、シンポジウム等での発表**

- ① 赤谷の森管理経営計画書の策定に当たり、地域の要望把握のため、活動報告会やシンポジウム等に参画
- ② 持続的な地域づくりと生物多様性保全の両立を目指した活動内容を普及するため住民説明会や活動の成果発表会等に参画